

明治大学 2019 年度【夏期】 国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

研修先名	ウィーン大学
所属	文学部 文学科ドイツ文学専攻 2年

留学先での学習(実習)内容およびご自身の学習成果について記載してください。(250~300字程度)

私は今回の留学で、自身の課題であったリスニング力とスピーキング力だけでなく、積極性も身につけることができた。授業では主に身近なものの単語の名詞(男性名詞、女性名詞、中性名詞)や意味を覚えて実際にクラスメートとその言葉を使って会話を試みたり、比較的簡単な問題を反復練習した。教科書の読む部分があればすぐに手を上げて率先して読んだり、自分のできない部分を少しでも克服できるように精一杯授業に取り組んだ。これらの繰り返しのおかげで、留学の後半からは文章を読むのがスラスラできるようになったり、自分の話すことができる語彙数が増えたことが実感できた。

課外活動等、授業以外の時間にどのような経験を得ることができたか記載してください。(250~300字程度)

私は授業の他にも歌唱のクラスに申し込み、週に一回音楽の先生のもとでヨーロッパの歌を歌った。歌を歌うだけかと思いきや、現地の先生が歌のルーツを説明してくださったり、オーストリアの民謡を歌うために歴史を学んだり、より広いことを知ることができた。歌を歌うことによってより楽しくドイツ語に触れることができ、また言葉の意味なども歌いながら知ることができたのは授業だけでは味わうことのできない貴重な体験だった。中でも、ベートーヴェンの「歓喜の歌」を歌うことができたのは印象に残っている。私は歌がもともと好きだったので、ドイツ語を学びながら歌を歌うことができ、歌詞まで勉強することができたのはとても嬉しかった。

滞在先・現地での生活に関する経験・感想について記載してください。(250~300字程度)

ウィーンでの生活でまず大変だったのが、日本との水の違いである。日本は軟水であるのに対してヨーロッパは硬水であるので、肌トラブルが起きたりシャンプーが泡立たなかったりしたのは少しストレスであった。しかし私は違う生活になれるのが早いので、あまり生活していて大変だったことはなかったと思う。自炊をしていたのでよくスーパーに行ったのだが、ウィーンの人たちはみんなエコバッグを持っていて、環境への意識が高いと感じた。レジ袋ではなく紙袋がレジ横で販売されていたのも感心した。海外のお店を見ると、日本のお店がいかに清潔であるかがよく分かった。

今後の展望・目標について、留学前と後での変化も含め記載してください。(250~300字程度)

留学する前は自分は日本から出ずにこのまま暮らしていくのだろうなどと思いながら外国語の勉強をしていたが、留学してからはもっと多くの国のことを知りたいと思うようになった。そしてそのためには、外国語をもっと学ばなければならないとより強く感じた。私は高校生の時に日本史選択だったので世界史を詳しく学んでいなかったのだが、今回の留学で世界史の重要性を知り、今少しづつ理解をし始めている。自分の意見を伝えるためには語彙力やスピーキング力が全然足りていないと感じたので、今後は文法に重きを置くのではなく、間違えてもいいから積極的に話してみようと思った。

写真貼付(1枚)

※研修先で撮影した写真を1枚(1MB以内)ご提供ください。撮影場所・写真の説明も記載してください。

撮影場所 グラーツ、グラーツ時計台付近から見渡した街並み



【注意事項】提出された留学報告書は、次年度以降の短期海外研修の募集および未来サポーター募金事業の広報を目的に、原則として当原稿をそのまま外部に公開いたします(学生番号、性別、生年月日、連絡先は公開しません)。

【写真提供の注意事項】※ご提供いただいた写真は、大学の広報誌やウェブサイト、募集説明会の際利用するパワーポイント等、様々な媒体で広く広報に活用させていただく可能性があります。複数の方が写っている写真をご提供いただく場合には、写真撮影の際にその写真に写る方に本学への写真提供について許可を得ていただいたものをご提供ください。